

## 平成 30 年度第 2 回あわら市郷土歴史資料館運営協議会会議録

日 時：平成 30 年 10 月 11 日（木）

午前 9 時 30 分から

場 所：市民文化研修センター 和室

（日程）

1. 郷土歴史資料館長 あいさつ

2. 議 題

(1) 平成 31 年度あわら市郷土歴史資料館事業について

(2) その他

（出席委員）

水野 和雄      宇都宮 高栄      長谷川裕子

能美 進      寺井 玲子

（欠席委員）

吉田 純一      荒木 秀子

（事務局）

文化学習課長                      岡田 晃昌

郷土歴史資料館館長              佐藤 雅美

郷土歴史資料館館長補佐        橋本 幸久

郷土歴史資料館学芸員            九千房英之

郷土歴史資料館                    畑 衣利奈

【郷土歴史資料館長 挨拶】

【議題】

(1) 平成 31 年度あわら市郷土歴史資料館事業について

（郷土歴史資料館学芸員が平成 31 年度事業について説明）

### 【質疑応答】

委員長：事務局の説明に対し、何かご意見、質問はないか？

委員長：平成31年度夏季企画展「あわらの祭」は祭と期間が合うのか？

事務局：はい、展示開催期間の7月2日～9月1日入るように合わせた。

委員長：展示はどういう企画にするのか？

事務局：展示資料は物重視ではなく、写真を多く用いた展示にしたいと考えている。一つの祭りを取り上げるのではなく、各祭りについて2、3個ずつ集めて展示するという形をとりたい。各地区の祭がこういうことをやっているということを知っていただく展示にしたい。

事務局：祭りは何時代までを対象とするのか？

事務局：歴史の深さはではなく、現在行っている祭りや特色のある祭りを対象として、県がまとめた祭りの調査本をもとにどういう形で行っているのかを調べていきたい。

委員長：全地区の祭りをパネルなどで表にしたらどうか？特色のある祭りを館が主体となって2、3ヶ所見学会を行ったらどうか？例えば、前日や当日に本殿の前で神主さんに祭りに関する話をしてもらおうといいと思う。

委員：最初に見学会を開催するとき以後もこのような会を予定していることを周知する必要がある。

委員長：見学を通じて祭りの良さを感じてもらい、将来も残していかなければならないという体で祭りを説明してはどうか。

事務局：委員の方のご意見を参考にしながら見学する祭りを決めたい。これを機に毎年開催したい。

委員長：本陣飾り物を作っている方や商工会をお呼びして説明を行った方がいい。

事務局：過去に講演は行っている。また、商工会が本陣飾り物バスツアーを行っているが、市外はもちろん市内でも本陣飾り物を知らない人が多くいるので、うまくアピールしていかないといけない。

委員長：いつから、どういう形でやり始めたのか。どう伝えていこうとしているのか、各地区がどのように制作しているのかなど、知りたい人がいると思うので、そこを大事にアピールしてほしい。また、見に来る観光客が主役ではない。主役である地域みんなが祭りを盛り上げようとするのが第一義であることを忘れないでほしい。

委員：展示に関するレジュメを冊子にして一つにまとめ、図書館の郷土資料コーナーに置いてほしい。

事務局：展示ごとの解説シートをファイルにまとめて置くようにしたい。

委員：蓮如上人記念館と重なるかもしれないが、蓮如関係の資料を展示で出

していただきたい。

事務局：蓮如の展示については2021年に吉崎御坊創建550周年を記念して開催したいと考えている。

委員長：あわらの祭りの展示は、あわら市内における各地区のお祭りを取り上げまとめた展示にするということか？今後、一つの祭りに絞り展示をするという考えはないのか？

事務局：はい。どの地区にどのような祭りがあるのかを知ってもらえる展示にしたい。一つの祭りを深く掘り下げて行うことも候補として考えたい。

委員：小さな祭りでも自分の地区に関係がある祭りを取り上げれば、来館のきっかけにつながるのではないか？どうしたら館に来てもらえるのかということを考える必要がある。

委員長：展示期間中に大きな祭りを見学するが、見学者を入館者としてカウントし、見学時に館の展示を宣伝した方がいい。

委員長：秋企画展「桑野遺跡と北陸の縄文装身具」についてご意見、ご質問はありませんか。

委員長：企画展関連フォーラムは報告書発行の記念を兼ねているので、盛大に開催した方がいい。

事務局：フォーラム開催前日に玉文化研究会をあわら市で開催したいと考えている。桑野遺跡のことを地元の人に知ってもらえる内容にしたい。

委員長：一般の方は遺跡の場所やなぜこの遺跡からたくさん出てきたのか、けつ状耳飾りにどういった意味があるのかを知りたいと思う。専門的な話だけでなく、そういった話を具体的に盛り込んだフォーラムにしていただきたい。

事務局：中国と日本の玉を比較した内容とあわせて、現在の縄文研究を取り入れた内容となるように先生方と打ち合わせをしていきたい。

委員：イベント案で上がっている、古代の首飾り作りとあわせて行ったらどうか？古代人の心を紐解く体験になると思う。

事務局：首飾りは時代が異なるので、縄文時代に関わりのある体験イベントにしたい。例えば、けつ状耳飾りを作ろうなどが挙げられる。

委員長：けつ状耳飾りは重要文化財になるような価値があるものだが、一般の人が展示を見に来るきっかけとどう繋ぎ合わせるかを考えないといけない。

委員：フォーラムは専門的になりやすいので、別日に一般向けの解説会を開催してはどうか？

事務局：ギャラリートークやへら状垂飾作りなどの体験イベントと組み合わせで行いたい。

- 委員：子供、一般、専門の方など、それぞれに興味をもたせるにはどのような方法をとったらいいか？
- 委員：フォーラムは専門の方、ギャラリートークは一般の方、体験作りは子供というように展示をみるためのしかけをいくつか作ってみてはどうか？
- 事務局：次年度はギャラリートークを積極的にやっていきたい。それに向けた広報もしっかり行っていきたい。
- 委員長：冬季テーマ展についてはどういった収蔵品を展示するのか？
- 事務局：民具を候補として考えている。
- 委員：収蔵品を保管する場所はあるのか？
- 事務局：非常に厳しい現状である。民具は保管場所がなく、旧芦原庁舎へ移動を行った。
- 委員：収蔵品の保管スペースを確保していただくようお願いしたい。
- 委員長：若い人たちは道具そのものや使い方を知らない人が多い。民具を陳列しただけでは、何もわからない。使い方や何のための道具であるかなどの説明が必要である。
- 事務局：民具を触る、説明するなどの機会を作ることも考えたい。
- 委員長：収蔵スペース問題を含め、民具のくん蒸、手入れなど今後の対応を考えてほしい。
- 事務局：収蔵スペースの関係から、寄贈を全て受け入れることができない。
- 委員長：なくなりつつある物もあるので、1点でも資料を集めていただきたい。
- 委員：廃校になった学校の教材や収蔵民具が処分されているので、館がもらい受けることはできないのか？
- 事務局：学校の教材については、市全体で討議している段階である。館の意見が反映できるのであれば、話しをしたい。
- 事務局：イベント案について何かご意見、ご質問はありますか。
- 委員：あわらの歴スタグラムは写真を通じて、歴史に興味もってもらえるのではないか。
- 事務局：どのように広報をしたらいいか？また、興味ややる気をわかせるにはどのような方法があるか？
- 委員：マスメディアに写真を投稿している人に声掛けを行ってはどうか。資料館の二階のロビーで展示してはどうか。
- 委員長：昔のあわらの祭り、現在の祭りなどテーマを決めて、あわら市の広報で告知したらどうか。写真の展示を行うことで来館のきっかけにつながる。また、この機に写真や映像などを館に収蔵し保管することで、今後の展示や調査、研究に活かせればと思う。

事務局：写真や映像はDVDに起こすことも可能なため、予算を考えたい。

委員長：本陣飾り物の一部を作成するイベントを開いてはどうか。

事務局：以前から行ってみたいイベントの一つなので、次年度以降考えていきたい。

委員：ミニ鬼瓦作りをやってみてはどうか。

事務局：焼く作業は創作の森に協力をお願いする形になると思う。イベント案として参考にしたい。

委員長：あわらの歴スタグラムは操作できる職員がいないといけませんが、館は独自に公式SNSを持っているのか。

事務局：現在、市の公式フェイスブックに掲載して広報を行っているため、館独自のものはない。歴スタグラムを実施するには市の政策課との調整が必要となる。情報がSNSによって拡散し、人を集める時代なので挑戦していきたいと考えている。